

商業施設の空き店舗に開設された「明舞まちななカラボ」―垂水区狩口台1、明舞第1センタービル



大の立
学生運

明舞団地に 交流の拠点

住民らと、研究拠点にも

垂水区と明石市にまたがる明舞団地に三十日、兵庫県立大経済学部(西

区学園西町)の大学生らが運営し、住民との交流や調査研究を進める活動拠点「明舞まちななカラボ」がオープンした。住民の高齢化が進む中、若い学生の発想と力で地域の活性化を目指す。

同団地は入居開始から四十年以上が経過し、人口はピーク時から約一万三千人減少。六十五歳以上が占める住民の高齢化

率は29・7%(二〇〇五年)に達する。同カラボは同学部と県が連携し、団地に学生がいる環境を生み出そうと、商業施設「明舞センター」の空き店舗に開設した。

オープンセレモニーには住民や学生ら約三十人が参加した。明舞まちななカラボの推進協議会の岡松治利会長(右)は「若い世代に手伝ってもらい活性化したい」と笑顔であいさつ。和田真理子准教授が「学生がそれぞれのテーマを決め、団地再生につながる議論をしたい。地元の人に参加してもらえたい」と話していた。

活動は今春以降、約五十人の学生が参加して本格化する見込み。明舞団地周辺にある他大学の学生の受け入れも検討する。(永田憲亮)